

第109回 定時株主総会

平成25年9月26日

株式会社 アルバック

経済の状況

▶ 日本

- ◆ 各種経済政策の効果による株価の上昇、円高の是正などにより、個人消費が堅調に推移したほか企業収益にも改善の動きが見られ、一部に不透明さが残るものの、景気は着実に持ち直してまいりました。

▶ 米国

- ◆ 個人消費の伸びの拡大や失業率の低下など緩やかな回復傾向で推移いたしました。

経済の状況

▶ 欧州

- ◆ 景気の下げ止まりの兆しが見られるものの、依然として一部の国々で財政の先行きや高い失業率に対する不安が懸念されております。

▶ 中国

- ◆ 個人消費や輸出の伸びが鈍化してきたことに伴い、景気の拡大テンポが緩やかなものとなりました。

市場環境

▶フラットパネルディスプレイ(FPD) 業界

- ◆テレビ市場の低迷により大型液晶テレビ関連の設備投資が引き続き停滞いたしました。
- ◆モバイル機器向けの中小型液晶ディスプレイ関連の設備投資は一服感が見られました。
- ◆次世代ディスプレイとして注目されている有機EL関連の設備投資に動きが出るなど、一部に回復の兆しが見られました。

市場環境

▶半導体業界

- ◆引き続きPC需要が低迷しているものの、メモリ価格の底打ち感から一部のお客様で設備投資再開の動きが出てまいりました。

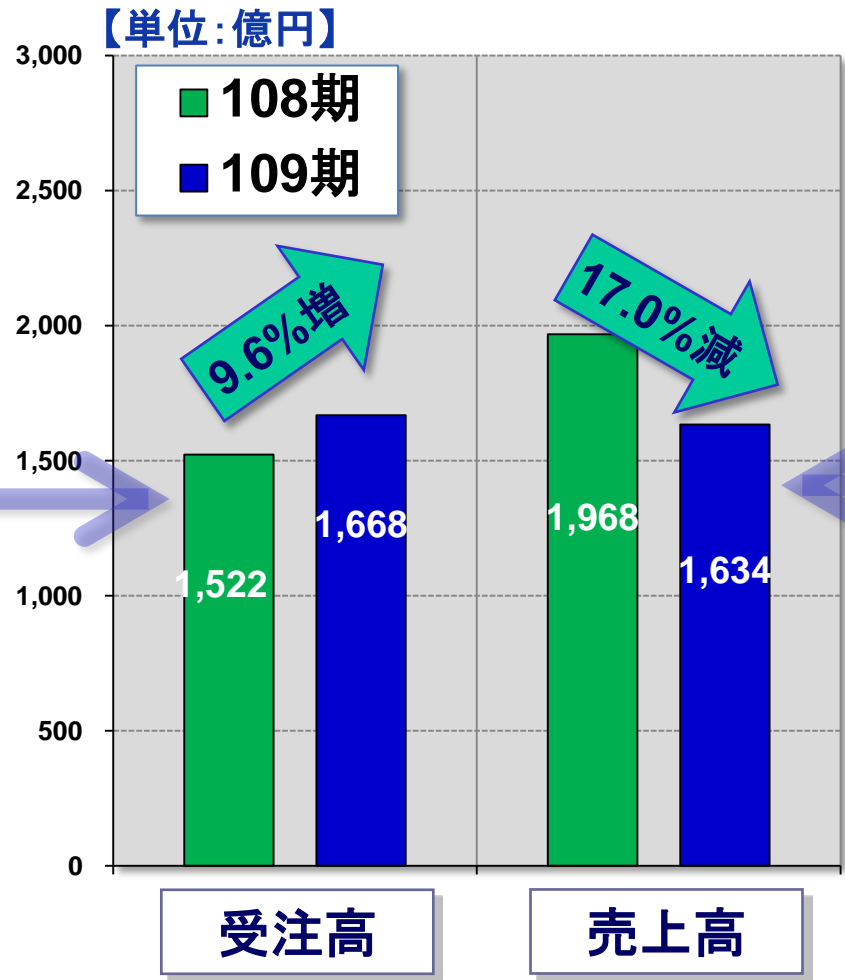
経営環境への対処

▶収益面

- ◆お客様からの継続的な価格引き下げ圧力に加え、競合他社との厳しい価格競争の中、グループ全体での諸経費削減の徹底、設備投資の抑制など固定費を圧縮するとともに、生産コストの削減を図りました。
- ◆FPDや半導体業界での受注環境が極めて厳しい状況にあることから、さらなる固定費の削減を図りました。

①事業の経過及び成果

第109期業績(連結)



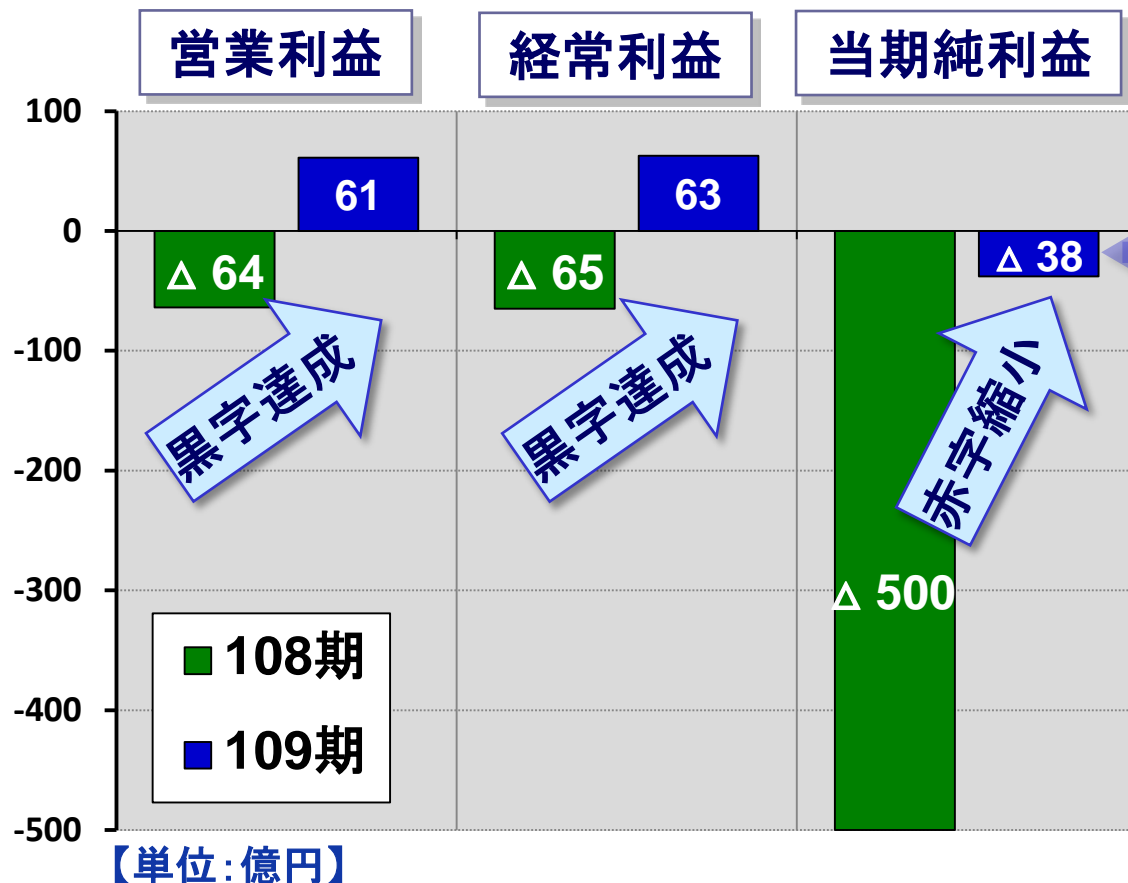
受注高
 有機ELなどの
 FPD製造
 装置が寄与

売上高
 受注時期の
 遅れなど

①事業の経過及び成果

第109期業績(連結)

■ 売上高が減少したものの、事業構造改革を推進し、コスト削減に努めました。



特別損失の計上
 マテリアル事業における一部不採算製品・取引の見直しに伴う特別損失を61億円計上
 (内訳)
 ・棚卸資産評価損 54億円
 ・固定資産の減損 7億円

①事業の経過及び成果

事業セグメント別実績

【単位：億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)		前期比(%)
真空機器事業	1,303	113.4	1,273	79.6	613	111.3
真空応用事業	365	97.8	361	97.7	112	113.8
合計	1,668	109.6	1,634	83.0	725	111.6

【百万円単位で計算後、四捨五入】

真空機器事業(1)

■ FPD製造装置

▶ 受注

アジア地域を中心にモバイル機器や照明に使われる有機EL製造装置や、中国を中心に大型テレビ用液晶ディスプレイ製造装置が寄与。前期に比べて増加。



有機EL製造装置

▶ 売上

アジア地域を中心に大型液晶テレビ用スパッタリング装置やモバイル機器に使われる中小型液晶ディスプレイ製造用のスパッタリング装置、プラズマCVD装置及び有機EL製造装置を計上。



スパッタリング装置

真空機器事業(2)

■ 太陽電池(PV)製造装置

- ▶ 高効率結晶系太陽電池製造装置の受注があり、韓国、台湾向けに化合物系太陽電池製造装置を中心に売上を計上。
- ▶ 補助金政策による太陽電池市場の盛り上がりがあるものの、設備投資は低迷したままで推移。



高効率結晶系太陽電池製造装置



化合物系太陽電池製造装置

真空機器事業(3)

■ 半導体及び電子部品製造装置

- ▶ PC需要の低迷の影響を受け、総じて厳しい状況で推移し、受注・売上とも前期に比べて減少。
- ▶ スマートフォン関連のファウンドリ用製造装置は、後工程だけでなく前工程向けにスパッタリング装置を受注いたしました。が、全般的な受注の回復までには至りませんでした。
- ▶ 省エネ対応として照明や液晶ディスプレイ用バックライトなどに使用されるLED需要の盛り上がりには欠け、LED製造用エッチング装置や成膜装置などの受注・売上が予想を下回りました。

①事業の経過及び成果

真空機器事業(4)

■コンポーネント

- ▶ FPD、半導体業界の設備投資が低迷。ドライポンプ、半導体製造装置用真空ポンプなどの受注が厳しい状況。
- ▶ 有機EL製造装置などのモバイル機器、光学分野向けのクライオポンプ及び分析機器や医療機器向けの小型ポンプ関連が堅調。受注・売上とも前期に比べて増加。



ドライポンプ



クライオポンプ



小型ポンプ

真空機器事業(5)

■ 一般産業用装置

- ▶ 自動車部品用真空熱処理炉、自動ヘリウムリークテスト装置に加え、医薬品用凍結真空乾燥装置や健康食品用真空蒸留装置などの売上が堅調に推移し、前期に比べて増加。



自動車部品用真空熱処理炉



自動ヘリウム
リークテスト装置



凍結真空乾燥装置

①事業の経過及び成果

真空応用事業(1)

■ 材料

- ▶ 液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料関連では、主要パネルメーカーの稼働率の低迷が続き、引き続き厳しい状況で推移。
- ▶ 半導体関連では、生産調整による減産の影響を受け、受注・売上が低迷し、前期に比べ減少。



液晶ディスプレイ用
 スパッタリングターゲット材料



半導体用
 スパッタリングターゲット材料

真空応用事業(2)

■ その他

▶ 制御システム関連

- ◆ 日本の自動車業界を中心に売上を計上いたしましたが、中国向け案件の投資延期や見送りなどが影響し、受注が低迷いたしました。

▶ 分析機器関連

- ◆ 日本や欧米の民間企業や国などの研究機関向けを中心に受注・売上とも堅調に推移いたしました。

▶ マスクブランク事業

- ◆ スマートフォンやタブレットPC関連が好調であったため、中小型液晶ディスプレイやタッチパネル関連を中心に受注・売上とも堅調に推移いたしました。

②設備投資の状況(主なもの)

設備投資の総額: 68億円

主な設備投資の内容	会社名
<ul style="list-style-type: none"> ・電子機器関連及び半導体の評価装置 ・電子材料製造用生産設備 	(株)アルバック
<ul style="list-style-type: none"> ・マスクブランクス生産用設備改善 	アルバック成膜(株)
<ul style="list-style-type: none"> ・大型マスクブランクス生産用設備改善 	ULCOAT TAIWAN, Inc.

③資金調達の様況

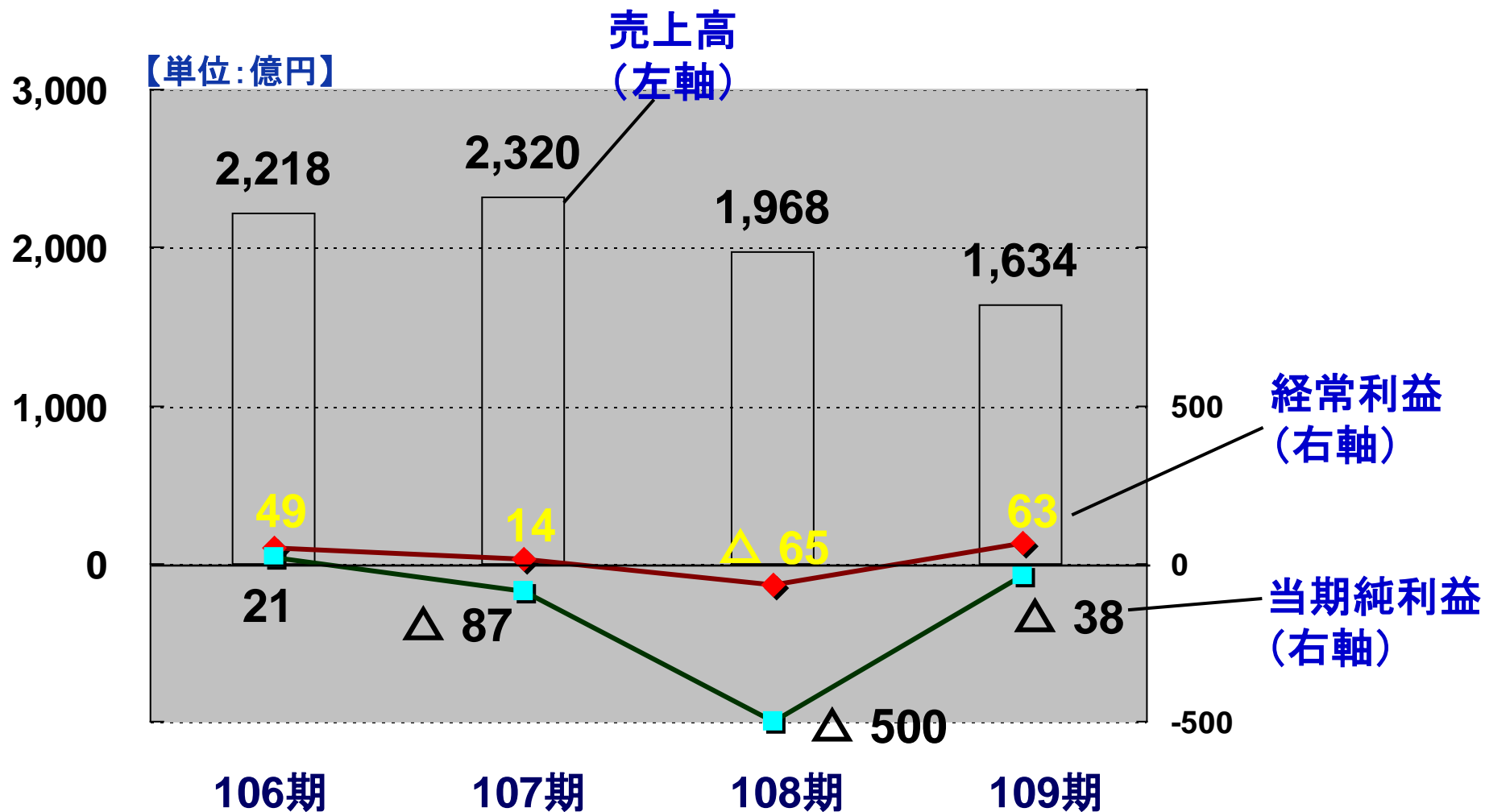
■ 資金調達

平成24年9月28日を払込期日として第三者割当によるA種種類株式の発行を行い、150億円の資金調達を実施いたしました。

■ 借入金、社債の総額

総額 1,061億円

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)



今後の見通し

■ 経済状況

- ▶ わが国経済は、引き続き各種経済効果の影響で、企業収益の改善や個人消費の持ち直しによる景気回復が期待されています。
- ▶ 新興国をはじめとする海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっています。

今後の見通し

■ 市場の状況(1)

▶ FPD業界

- ◆ 大型液晶ディスプレイ用の設備投資がテレビ市場の低迷により引き続き停滞するなど厳しい状態で推移。
- ◆ 有機EL関連は従来のモバイル機器に加え、テレビや照明等新規用途への投資に期待がもたれています。

▶ 半導体業界

- ◆ 次世代NANDフラッシュメモリなどメモリへの投資が見られるほか、不揮発性メモリや、ロジックファウンドリ関連の投資が予想されております。

▶ 電子部品業界

- ◆ スマートフォンなどの最先端デバイスの投資が活発になると予想しております。

今後の見通し

■ 市場の状況(2)

▶PV(太陽電池)業界

◆補助金政策により太陽電池市場の需要が強くなっているものの、投資環境は当面、厳しい状況が続くものと予想されます。

▶エネルギー・環境ビジネス

◆エコカー関連が堅調に推移。

◆高輝度LED、電力制御のパワー半導体、有機EL照明などの「エネルギー・デバイス」や医療、バイオビジネスの中長期的な成長を予想しております。

事業構造改革プラン

■ 筋肉質の会社へ

- ▶ エレクトロニクス産業の特徴である設備投資の大きな波にも耐えられるような筋肉質の会社にするため、引き続き「事業構造改革プラン」を着実に実行するとともに、その指針となる「中期経営計画」の達成に努めてまいります。

中期経営計画

■より確実・安定的に収益確保できる体制を確立し、成長への投資余力を確保

▶基本方針

①価値創造型ビジネスモデルの再構築

- ・真空技術を核として『付加価値』を高める仕組みを再構築することで、顧客満足度を高め、収益体質・財務体質強化を目指す

②不採算事業の見直し

- ・製品毎の採算管理の徹底

③損益分岐点売上高の引き下げ

- ・受注減少時にも確実・安定的に収益の確保ができる体制を構築

中期経営計画

- 「開発戦略」、「営業戦略」、「コスト競争力強化」、「経費削減」をはじめとする10項目の施策を遂行。

< 数値目標(連結ベース) >

	最終年度 (平成28年6月期)
受注高	2,050億円
売上高	2,050億円
営業利益	170億円
経常利益	140億円
当期純利益	110億円

【単位:億円】

	第108期	第109期	増 減
流動資産	1,572	1,536	△37
固定資産	924	897	△27
有形固定資産	740	718	△22
無形固定資産	57	54	△3
投資その他の資産	127	125	△3
資産合計	2,497	2,433	△64

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

- ◆受取手形及び売掛金 : 53億円減少
- ◆たな卸資産 : 133億円減少
- ◆建設仮勘定 : 39億円減少
- ◆現金及び預金 : 162億円増加

【単位:億円】

	第108期	第109期	増 減
(負債の部)			
流動負債	1,645	1,441	△205
固定負債	439	398	△42
負債合計	2,085	1,839	△246
(純資産の部)			
純資産合計	412	594	+182
負債及び純資産合計	2,497	2,433	△64

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

負債の部 :

- ◆コマースャルペーパー : 100億円減少
- ◆受注損失引当金 : 43億円減少
- ◆流動負債「その他」 : 73億円減少
- ◆長期借入金 : 41億円減少

純資産の部 :

- ◆資本剰余金 : 150億円増加

【単位：億円】

	第108期	第109期	増 減
売上高	1,968	1,634	△335
営業利益	△64	61	黒字達成
経常利益	△ 65	63	黒字達成
当期純利益	△ 500	△38	+462

特別損失の計上
一部不採算製品・
取引の見直しに
伴う特別損失を
計上



貸借対照表

【単位：億円】

	第108期	第109期	増減
(資産の部)			
流動資産	1,058	945	△113
固定資産	831	791	△40
資産合計	1,889	1,736	△153
(負債の部)			
流動負債	1,342	1,061	△281
固定負債	312	271	△41
負債合計	1,653	1,332	△322
(純資産の部)			
株主資本	236	401	165
評価・換算差額等	△1	3	3
純資産合計	235	404	169
負債純資産合計	1,889	1,736	△153

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

損益計算書

【単位：億円】

	第109期
売上高	844
営業利益	6
経常利益	87
当期純利益	15

本日は、まことに
ありがとうございました。

ULVAC

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・半導体・太陽電池・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

株主懇談会

代表取締役執行役員社長

小日向久治

アジェンダ

事業構造改革の実績

代表取締役執行役員社長
小日向久治

2014年6月期連結業績予想

代表取締役執行役員社長
小日向久治

今後の開発戦略について

執行役員
技術企画室長兼超材料研究所長
齋藤一也

質疑応答

事業構造改革の実績(1)

■ 及び濃紺、アンダーラインは12年度完了

<p>1.開発戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>PM中心の開発体制の確立</u> ・<u>商品開発進捗のマイルストーン管理方法決定</u>
<p>2.営業戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>PM体制・「アルバック販売」体制見直し実施</u> ・<u>国別戦略(ロードマップ)作成中</u> ・<u>営業本部に2名の取締役を配置し、トップ営業を強化</u>
<p>3.コスト競争力強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>売上総利益率改善 12/6期 14.4%→13/6期 22.6%</u> ・<u>追加コスト削減 25億円(単体)</u> ・<u>サプライヤの選択と集中(12/6期 421社→13/6期 135社)</u> ・<u>グローバル生産体制の確立及びグローバル生産企画室設立</u> ・<u>3Sの推進</u>
<p>4.経費削減</p>	<p><u>固定費削減 12/6期 377億円→ 13/6期 260億円(単体)</u> <u>(うち 経費 12/6期 118億円→ 13/6期 71億円)</u></p>
<p>5.利益計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>事業部毎の収益計画責任明確化定着</u> ・<u>事業部毎に計画対比実績管理強化・徹底</u> ・<u>損益の見える化で不採算製品の見直し実施</u>

事業構造改革の実績(2)

【濃紺、アンダーラインは、12年度完了】

<p>6.人事制度改革</p>	<p><u>人事制度改革実施（給与体系見直し・賞与の変動費化）</u></p>
<p>7.スリム化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>棚卸資産圧縮 12/6期 572億円 → 13/6期 439億円</u> ・<u>資金繰り管理強化の観点から、債権回収管理強化の仕組み導入</u> ・<u>遊休不動産売却(2件)。対象物件の売却活動進捗管理強化</u>
<p>8.業務改革</p>	<p><u>会議の見直し（40%削減）</u> <u>事務の手続き簡素化、業務プロセス見直し</u></p>
<p>9.リスクマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>与信管理強化</u> ・<u>フロントローディング徹底＝受注前審査制度導入(与信、技術リスク等)</u> ・<u>技術リスクのP/L、B/S、C/Fへの影響把握体制確立</u>
<p>10.グループ経営管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>関連会社管理強化</u> ・<u>グローバル生産企画室設立</u>

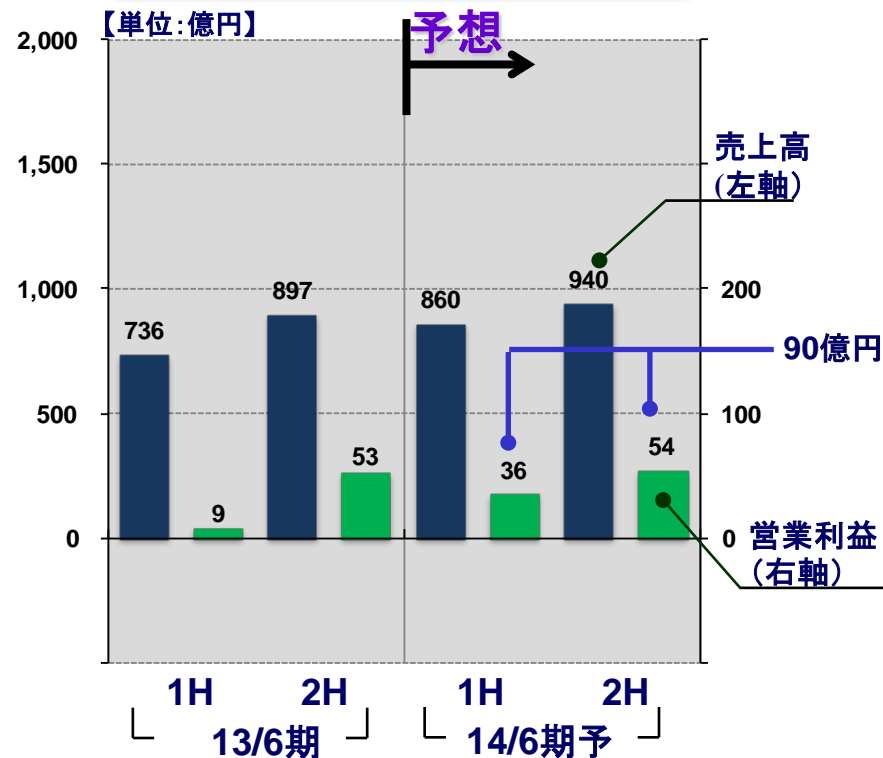
2014/6期業績予想

受注は、前年同期比で8%増。売上は、前年同期比で10%増を予想。
 営業利益は、収益性の高い半導体及び電子部品製造装置の売上増を主因に90億円を
 予想。当期純利益は、黒字転換を予想。

【単位：億円】

	13/6期 実績	14/6期予	
		2Q(累計)	通期
受注高	1,668	840	1,800
受注残高	725	705	725
売上高	1,634	860	1,800
営業利益	61	36	90
率	3.7%	4.2%	5.0%
経常利益	63	25	70
率	3.8%	2.9%	3.9%
当期純利益	-38	10	40

売上高と営業利益の推移(半期毎)

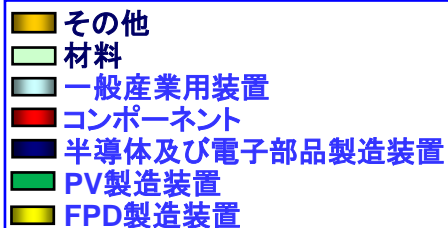
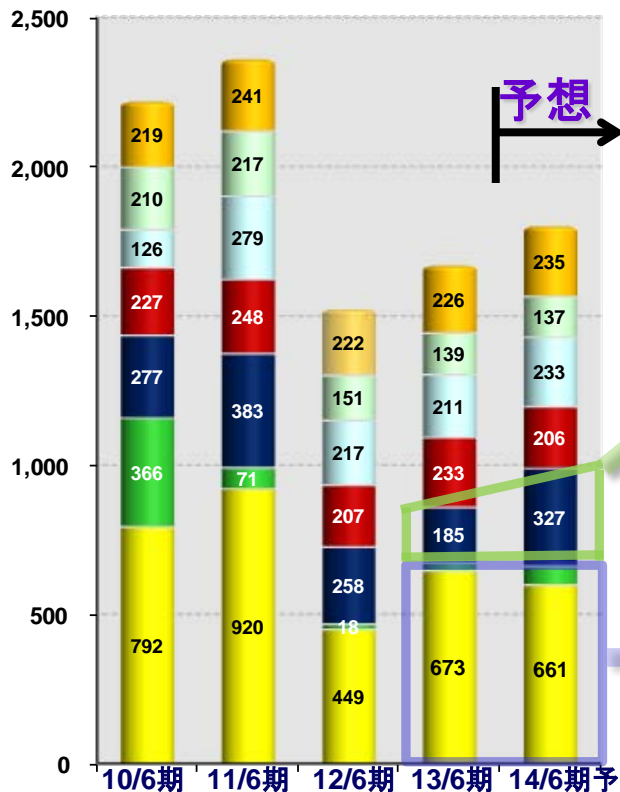


【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

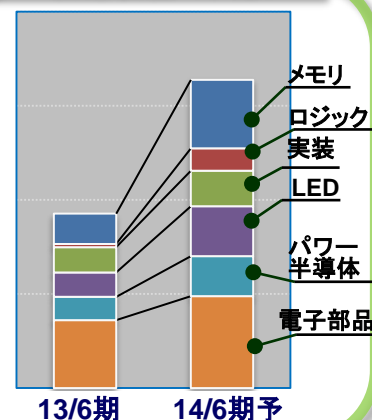
品目別受注高実績・通期予想

14/6期予想

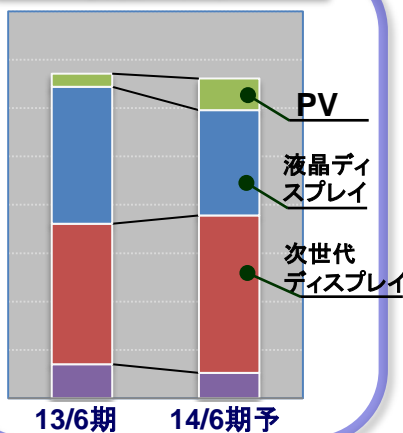
【単位：億円】



半導体及び電子部品製造装置の内訳



FPD及びPV製造装置の内訳



- ・メモリ : 中国、日本、米国向けにNANDフラッシュの投資が見込まれる
- ・ロジック・実装 : ファウンドリなど継続的な投資が見込まれる
- ・LED : 日本、中国向けに投資が見込まれる
- ・パワー半導体 : 日本、中国向けに投資が見込まれる
- ・電子部品 : 自動車部品、MEMS、バッテリーなど高機能デバイスの投資が見込まれる

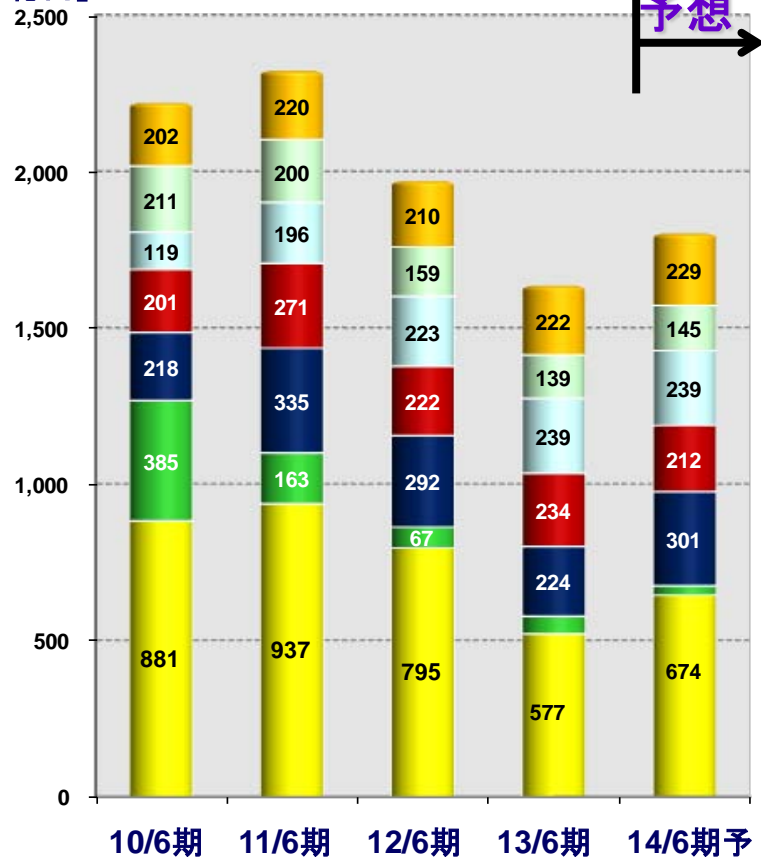
- PV**
- ・PV : 化合物系太陽電池や高効率太陽電池の投資が見込まれる
- FPD**
- ・液晶ディスプレイ : 中小型パネル用が大半を占め、大型用は中国向けのみを見込む。一部IGZO関連も期待
 - ・次世代ディスプレイ : 有機EL関連が中心。中国、台湾など中小型、大型パネル用の投資が見込まれる

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

品目別売上高実績・通期予想

前期に有機ELなどFPD製造装置の受注が積み上がったことと、半導体及び電子部品製造装置の受注増加が見込まれるため、売上高が増加する見込み

【単位：億円】



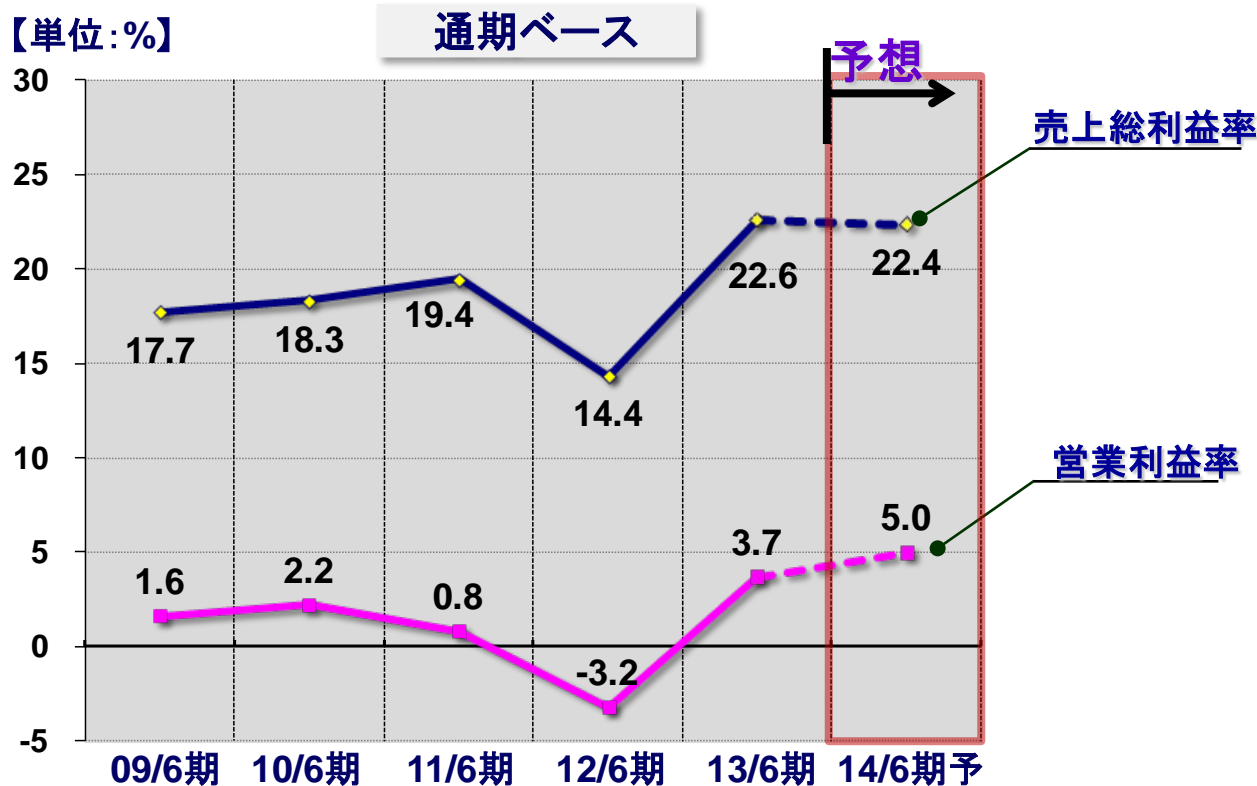
- その他
- 材料
- 一般産業用装置
- コンポーネント
- 半導体及び電子部品製造装置
- PV製造装置
- FPD製造装置

※13/6期から、「FPD製造装置」と「PV製造装置」を統合し、「FPD及びPV製造装置」に変更していますが、グラフの表記のみ、「FPD製造装置」と「PV製造装置」を分けています。

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

利益率の推移・予想

営業利益率は、半導体及び電子部品製造装置の売上増が寄与し、前年同期比で改善を見込む。

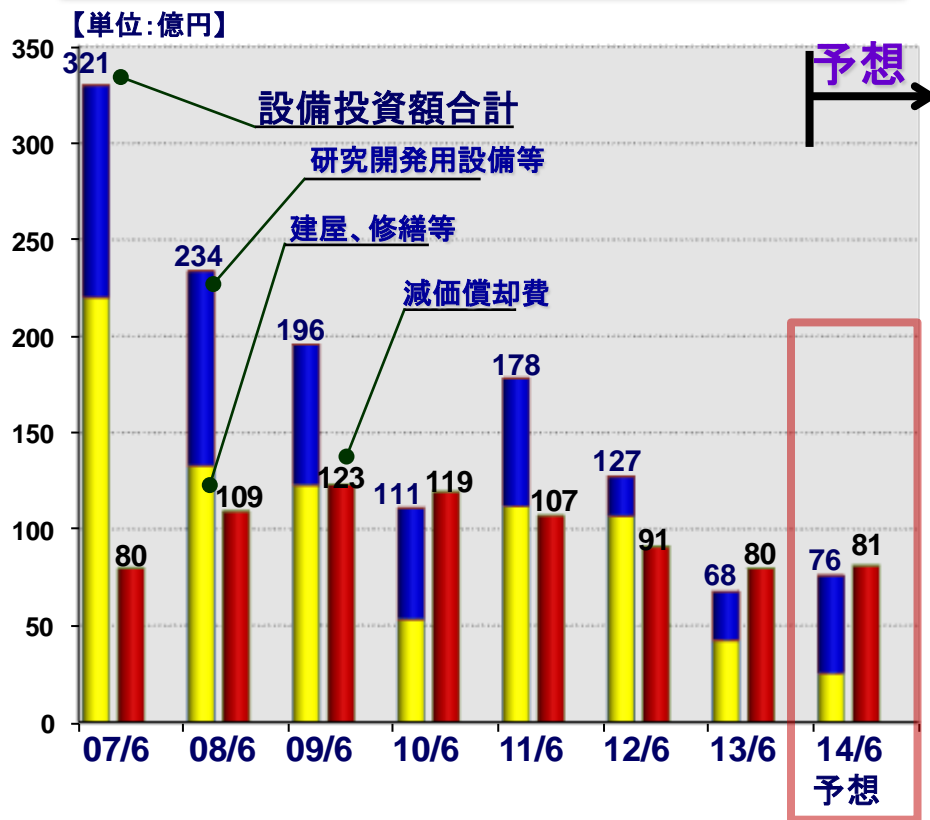


【小数点以下第2位は四捨五入】

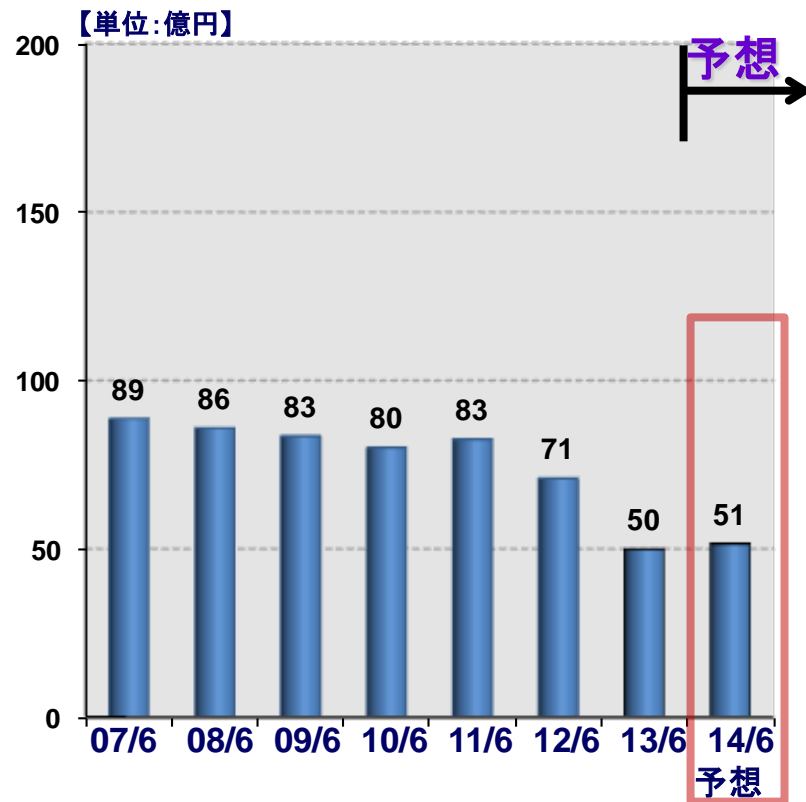
設備投資、減価償却費、研究開発費の推移・予想

投資額合計は、減価償却費内を維持。
設備投資は、競争力強化のため、研究開発用設備を中心に行う。

設備投資及び減価償却費の推移・予想



研究開発費の推移・予想

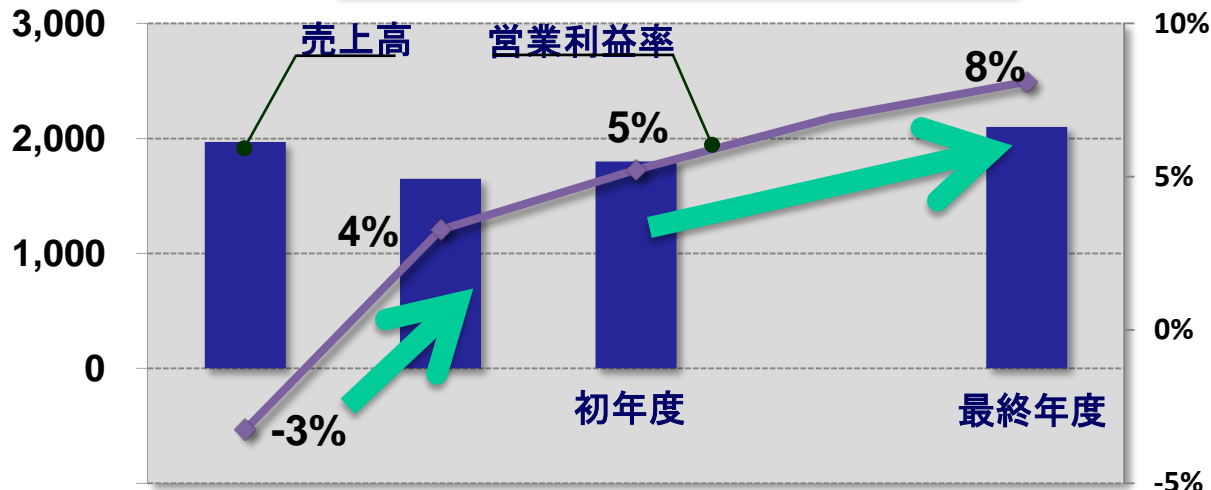


【単位未満は四捨五入】

目標数値(連結ベース)

売上高と営業利益率

【単位: 億円】



コストダウンの推進

①13/6期

- ・追加コスト削減
- ・集中購買によるコストダウン
- ・採算重視の受注の徹底
- ・固定費の削減

②14/6期以降

- 上記に加え以下を強化
- ・標準化推進
 - ・グローバル生産の最適化
 - ・製品毎の採算管理徹底

	2012/6期	2013/6期	2014/6期 予想	2016/6期 目標
受注高	1,522	1,668	1,800	2,050
売上高	1,968	1,634	1,800	2,050
営業利益 (率)	-64 (-3%)	61 (4%)	90 (5%)	170 (8%)
経常利益	-65	63	70	140
当期利益	-500	-38	40	110

【単位未満は四捨五入】

マーケット 技術トレンド 現在 2~3年後 5~10年後

FPD

高 精 細

低 消 費 電 力

軽 量 化

Smart Phone
(LTPS, IGZO)

4K2K-OLED TV
(LTPS, IGZO)

フレキシブルディスプレイ

半導体

大 容 量

高 速

低 消 費 電 力

メモリ

ロジック

NAND

3D-NAND

不揮発性メモリ

超高容量
不揮発性メモリ

ロジック新技術

450mmウエハ

電子部品 (照明)

高 輝 度

低 消 費 電 力

防 眩

白色
LED

水銀灯
代替

ヘッドライト
(高輝度LED)

OLED照明

マーケット 技術トレンド 現在 2~3年後 5~10年後

自動車

- 生産性
- 環境対応
- 低燃費
- EV, HV, FCV
- 軽量化
- 電子/IIT化

- リフレクタ成膜
- ラジエターろう付け
- フィルムコンデンサ
- Liバッテリー
- Power IC (Si)
- MEMS, センサー
- 高性能磁石処理
- ナノメタル触媒
- 水素吸蔵
- 燃料電池
- 化合物 Power IC (SiC, GaN)
- プラスチックボディ(窓)材

- 無公害車
- 自動運転

環境・エネルギー・資源

- 創エネ, 省エネ

- 太陽電池
- Liバッテリー
- 低温熱発電
- Eco 窓ガラス
- 燃料電池

- 高度循環型社会

医療・食品

- 高度医療
- 負荷軽減
- 鮮度維持
- 高純度精製

- 医療用高精細ディスプレイ
- 低被爆X線イメージセンサー
- 血液微量検査
- フリーストライ
- サプリメント蒸留精製
- ウェアラブル血圧計

- 負荷軽減医療
- 適正投薬
- 常時健康診断

真空装置のリーディングカンパニーとして

1. 基盤

コアテクノロジーの
 「真空」が基盤

2. 強さ

真空装置トップメーカーとしての総合力

3. 目標

最先端分野、成長分野で常にトップ

4. コア

得意の薄膜形成、プラズマ応用技術を更に強化



Thin Film (薄膜) 形成技術 (スパッタリング、蒸着、CVD等)

OLED
 (モバイル、TV、照明)

IGZO、LTPS

不揮発性メモリ

パワー半導体

高輝度LED

高効率太陽電池

真空凍結乾燥、熱処理、溶解、計測、分析、ポンプ等

医薬品

自動車部品

高性能磁石

漏れ検査

表面分析
 ガス分析

真空ポンプ、
 真空計

真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック
ULVAC

本日は
ありがとうございました